

芦安小学校後期自己評価書

令和4年1月21日

1 評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対する回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、

A=4 B=3 C=2 D=1

として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

- ・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づいていく。
- ・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり、1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者、児童数ともに、アンケート数は少ないが、2学期以降、共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものもある。

2 学校評価の分析と改善方策

〔全体評価〕

アンケート調査の結果から、児童・教職員・保護者共に、複数の項目で前期・後期の変化があったが、多くの項目で肯定的評価となった。芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果的に実施されている。また、多くの児童は、学校生活を楽しいと感じ、授業へ意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている。学校以外の生活については、宿題をする、朝食を食べるなど家庭での生活習慣がしっかりできている様子が見て取れる。

（1）学校運営・学校経営

〔達成状況〕

良好な状態である。多くの項目で職員・保護者から肯定的な評価が得られている。校務分掌が適切であり、教職員が協働し教育活動を行う仕組みができてきている。特に、生徒指導上の課題について、教職員だけでなく、外部の専門家や保護者の理解・協力を得て、丁寧な対応がきている。防犯や防災管理など安全管理については、危機管理マニュアルの見直しや告知なしの避難訓練の実施など十分に対応ができていた。

一方、保護者からの意見にあるが、コロナ禍で活動が制限され、小中合同の活動や地域の方々との運動会・文化祭などの行事を例年の計画通りには、実施できず、児童生徒、保護者、さらに地域の方々の期待に十分に答えられないところがあった。

〔改善策〕

昨年に続き今年のコロナ感染症の現状を考えると、コロナ対応を行いつつ教育活動が今後も求められる。コロナ感染症が今後どのような変化が起こるか予測不可能なことが多い。しかし、児童生徒が安全に安心して、楽しい学校生活を送れるように、「児童生徒を第一に考えた教育」を継続的に行っていききたい。

また、学校・家庭（保護者）・地域がそれぞれの役割と責任を果たし、相互に連携・協働して、「地域全体で子供たちの成長を支えていく仕組み」を、「保護者・地域に信頼される学校」を目指していききたい。

少人数学校の良さを最大限生かしつつ、ICTの活用や保護者や地域との連携・協働により、少人数の弱点を減らすことで、芦安小中学校の良さや魅力をさらに向上させたい。

（2）学習指導

〔達成状況〕

学習のめあてを示すこと、ノートをしっかりとるなど、学習のルールや決まりを守った授業がどの学年でも定着している。教師、友達の話をしっかり聞ける児童が増えている。また、一人一人に合わせたきめ細かな指導が行われている。

多くの児童は、「学校が楽しい。」「授業は分かる。」と回答しているが、前期と同様に、「学校が楽しくない。」「授業が分からない。」と回答している児童がいる事も確かである。全教職員で児童の様子を見取り、情報を共有するとともに、個別指導を行うなど、対応を行ってきた。また、保護者の理解を得ながらスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、さらに外部の専門家とも協力を得て、それぞれにあった児童にあった指導のあり方を教職員が学び、実践している。

〔改善策〕

わかる授業・楽しい授業の実戦、学習習慣の定着に向けて、児童を褒めたり、励ましたりしながら、児童自ら主体的に学ぶ授業づくりを行っていききたい。

また、児童一人一人の特性や学習進度などに応じ、指導方法や教材を準備するなどの「指導の個別化」を進めていききたい。今後も継続して、より深く児童の特性を理解して、一人一人にあった指導・支援の方法を学ぶ機会を作っていききたい。

また、ICTの活用を確実に進めていききたい。ICTの活用、タブレットの利用は、児童が自らの興味関心を生かし、主体的に学習する機会を大きく増やすことができる。低学年生から日々の学習・生活の中で、タブレットの利用を促進し、学習の道具として、学校でも家庭でも自在にタブレットを利用し、自ら学習できるよう指導していききたい。

（3）生徒指導

〔達成状況〕

前期同様に、教職員全体で、児童一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら児童理解、共感的理解に努め、信頼関係ができていることが読み取れる。

特に、教師と児童のコミュニケーション・信頼関係は、児童・保護者のアンケートからも、さらに向上していることが分かる。

しかし、現在も、友達の言動や態度に嫌な思いをしたり、友達との関係づくりに戸惑いを持ったりする児童がいることも確かである。

年度の初めから、「児童同士の信頼関係づくり」（いやなことが嫌と言える、自分の意見を聞いてもらえるなど）・自己肯定感・自己有用感の向上に向けて、週2回「スマイルタイム」（「行動」と「感情」の教育を進めるゲーム）を全校で行ってきた。また、休み時間や放課後、教職員が児童と活動をともにする時間を多く持ち、児童同士のよりよい関係づくりやトラブルへの指導を常に行ってきた。

養護教諭を中心に児童の居場所づくり、安心して悩みや相談をできる体制づくりに努めてきた。また、後期は、SCやSSWだけでなく、より専門的な知識や経験を持った方々に児童への支援・指導法について、担任や保護者にアドバイスいただく機会を設けることができた。

〔改善策〕

児童生徒が安心して生活できる関係を作るには、日ごろから、児童生徒が、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行うことが大切である。その具体的な取組として、スマイルタイムの活動を計画的、組織的に継続していきたい。

来年度の児童会本部役員の公約には、全員が様々な方法で「やさしさのあふれる学校づくり」を掲げている。このような児童生徒の主体的な活動を大切にしていきたい。今後も、互いを認め合える人間関係・学校風土を作っていきたい。

（４）保護者・地域との連携

〔達成状況〕

保護者の授業参観や行事を参観する機会は、制限を設ける中で、工夫しながら実施できた。しかし、コロナ前と比べると十分とはいえない。特に、地域の方々との連携については、運動会に応援メッセージを頂いたり、挨拶運動や見守りの協力を頂いたりしているが、参観や活動をともにすることは、できていない。

保護者・地域への学校教育活動の情報提供は、学校だより・学年だよりの配布、また学校ホームページに児童の授業の様子や活動の様子を掲載する回数を増やすことにより、向上しつつある。

〔改善策〕

保護者からの学校教育の理解・信頼は、保護者との連携の基盤となるところである。コロナ禍でも、それを維持向上させるために、一斉に授業参観や学校開放を行うのではなく、児童生徒や参観者への感染対策を実施しつつ、少人数での授業参観や体育館や校庭での活動を参観していただくなど、児童生徒の様子、授業の様子を知っていただく機会を作っていきたい。

また、学校からの情報提供だけでなく、保護者からの意見・要望を受け入れる仕組みを作っていきたい。

V. 学校の特徴ある取組

〔達成状況〕

3・4年生の夜叉神登山、5・6年生の櫛形山登山活、全校児童で行った御勅使川の自然観察（ユネスコエコパークの学習）などの自然体験活動は、実施することができた。その際には、芦安ファンクラブやエコパ伊那ヶ湖など専門的な知識・経験を持つ方々や保護者の協力を得ながら、児童に大きな経験と達成感を与えることができた。春の自然観察・親子清掃と学校林整備活動（植樹）は、実施することができたが、間伐や枝打ちは、小学校児童は体験することができなかった。

また、芦安小中合同の活動では、小中合同イングリッシュゲーム、中学生による英語読み聞かせ、中学生が小学生の勉強を見てくれる学習サポートなどは、計画的に実施することができた。特に、中学生による英語の読み聞かせは、中学生の英語の発音のすばらしさ、読み方の工夫、さらに、英語の表現の指導など、まさに、小学生が憧れる中学生の姿をみることができた。小中文化祭では、中学生が小学生の発表に大きな拍手で応援してくれた。中学生の合唱と夜叉神太鼓の発表は、小学生に大きな感動を与えてくれた。小中合同の太鼓の発表では、小学生のがんばりを講師の先生からほめていただくことができた。

しかし、小中合同のやきいも集会や地域の自然や文化を学ぶ自然学習など、活動コロナ感染症の対応や休業などの影響で実施できないことがあった。

〔改善策〕

自然体験活動は、芦安小中学校教育の大きな柱であり、登山活動を経験した子どもたちの感動、達成感ははなり知れない。来年度も、3・4年生の夜叉神登山を継続して実施し、5・6年生は、白根御池小屋の宿泊を含めて1泊2日の登山体験を計画している。1・2年生を含めてユネスコエコパークの学習、学校林整備、自然学習、ユネスコスクールとしてESD,SDGsの活動など芦安小中学校ならではの学習・体験を継続していきたい。

また、一昨年から小学校5・6年生が参加している夜叉神太鼓に参加してきた。来年度からは、4年生から参加し、芦安地区の文化を体験とともに学ばせたい。

児童生徒数が毎年減少する中、芦安小中学校合同の活動は、相互の教育活動の目標を達成するため、児童会生徒会の活動の場を確保するためにも、重要になってくる。今後も小中合同の活動の機会を大切にしていきたい。

教職員の研究（校内研）のテーマにもなっている「ICTの活用」は、全ての児童生徒にとって避けて通ることができない。ICTの特性を最大限活用し、児童生徒に対するきめ細かな支援、個々の才能を伸ばすための学びの機会を作っていきたい。小中学校9年間を通じて、ICTの活用により学習記録を残し、引き継ぐなど小中学校のつながりを大切に、一人一人に適した指導を継続していきたい。

保護者・地域の方々の理解と協力を得ながら、小中一貫教育のさらなる充実に向けて、「魅力ある学校」「信頼される学校」づくりを行っていきたい。